

# まなび通信

- ◆ 最上教育事務所研修通信 第3号
- ◆ 令和2年5月28日
- ◆ 最上教育事務所指導課

## 評価特別号第2弾

# 学習評価の改善点を確認しましょう!

前回の「まなび通信第2号」では、「学習評価の基本的な考え方」を確認をしました。

本通信では、「評価の方法と留意点」についてお伝えします。



## どのような方法で評価をするのか

観 点	何を評価するか	評価の方法(例)
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の知識及び技能の習得状況</li> <li>○既存の知識及び技能を関連付けて活用しているか</li> <li>○他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念を理解し、技能を習得しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ペーパーテストでは、事実的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する</li> <li>□実際に知識や技能を用いる場面(文章により説明をさせる、観察・実験をさせる、式やグラフで表現する等)を設ける</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な力を身に付けているかどうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ペーパーテストのみではなく、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる</li> <li>□ポートフォリオを活用する</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ノートやレポート等における記述</li> <li>□授業中の発言</li> <li>□教師による行動観察</li> <li>□児童生徒による自己評価や相対評価等の状況等</li> </ul>

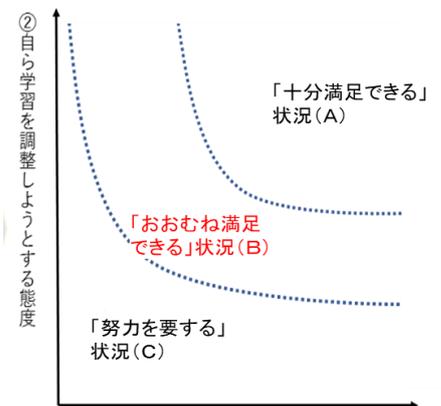
▲挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉えるものではありません!

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ

①粘り強く学習に取り組む態度 …(横軸)

②自らの学習を調整しようとする態度 …(縦軸)

※①②は相互に関わり合いながら立ち現れる。



①粘り強く学習に取り組む態度

## 各学校での留意事項について

### ①評価の方針等の児童生徒との共有 ～ 妥当性 や 信頼性 を高める ～

児童生徒自身に学習の見通しを持たせるために、**学習評価の方針を事前に共有する場面**を設けていきましょう。

➔ 小学校低学年の児童に対しては、学習の「めあて」などわかり易い言葉で！

### ②観点別学習状況の評価を行う場面の精選

評価に係る記録は、毎回の授業ではなく、**単元や題材などの内容や時間のまとまりごと**に行うなど、**評価場面を精選**しましょう。

➔ 授業改善のために、児童生徒の学習状況は適宜把握しましょう！

### ③外部試験や検定等の学習評価への活用 ～ 参考資料とする ～

全国学力・学習状況調査、県学力調査等の外部試験や検定等の**結果を指導や評価の改善**につなげていきましょう。

➔ 外部試験や検定等は、学習指導要領の目標に準拠したものではない場合や内容を網羅的に扱うものでない場合があることから、教師が行う学習評価の**補完材料**です。

### ④学校全体としての組織的かつ計画的な取組

教師の**勤務負担軽減**を図りながら学習評価の**妥当性や信頼性**が高められるように、学校全体として組織的かつ計画的に取り組みましょう。

➔ 具体的な取組例として

- ・教師同士での評価規準や評価方法の検討、明確化
- ・実践事例の蓄積や共有
- ・評価結果の検討などを通じた教師の力量の向上
- ・校内組織(学年部会や教科部会)の活用



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料として、国立教育政策研究所 HP にアップされています。右の QR コードを読み込んでアクセスできます。

